

# 各幕僚長

# 令和7年 新春の挨拶

## 動乱の先に見える光明



統合幕僚長 陸将 吉田 圭秀

第7代(2023.3)  
東京大学S11卒  
東京都出身

柱として、引き続き抑止力強化に邁進して参ります。  
第1の柱については、複合事態が常態化する中、大局観をもって当面の作戦を完遂してまいります。この役割の大部分は、新設の統合作戦司令部へ移管すると共に、「統合作戦司令部」へ移管する予定です。  
第2の柱については、何となくも本年3月に新編される「統合作戦司令部」の戦力化が最大の焦点であり、新設と同時に機能発揮できるよう鋭意準備中です。また7年度末から導入予定のスタンダード防衛能力(反撃能力)の戦力化も待たなければなりません。  
第3の柱については、昨年に行

## 「強靱な陸上自衛隊の創造」の実現に向けて



陸上幕僚長 陸将 森下 泰臣

第39代(2023.3)  
防衛大32期  
福岡県出身

本年、陸上自衛隊は、「防衛力整備計画」の3年目として、各種事態等に対応し得る部隊の即応性を向上させること、防衛力の抜本的強化に係る取組を着実に推進してまいります。また、将来にわたって使命を完遂し得る陸上防衛力を確保するため、人材確保に係る分水域としての人的基盤の抜本的強化を始めとした各種取組に大きく舵を切ることが必要であると考えています。陸上防衛力の核は、飽くまで「人」であるとの認識の下、隊員一人一人が働きやすい、

## より精強・誠実な海上自衛隊へ



海上幕僚長 海将 齋藤 聡

第36代(2023.7)  
防衛大33期  
長崎県出身

では、多大な心配をおかけしました。また、情報保全に関する不適切な取り扱い、手当の不正受給等、国民の皆様への信頼を大きく損なう不祥事を生じたことに対し、深くお詫言申し上げます。  
現在、個々の事案の再発防止を含め、組織の態勢も改善すべく「海上自衛隊をより精強・誠実な組織とするための検討」(略称「よりSS2」)に、武力紛争は依然として絶えませ

## 大空とその先へ



航空幕僚長 空将 内倉 浩昭

第37代(2023.3)  
防衛大31期  
鹿児島県出身

能登半島地震が発生し、苛酷な試練に直面しました。改めて犠牲者の方々の冥福をお祈りしますとともに、被害に遭われた方々に心からお見舞い申し上げます。輪島分屯基地は、自らも被災した中、自治体等と連携し避難住民の一時受入れや人命救助等の「命を救う活動」を行い、その後も給水・給食支援、巡回診療等の「命を繋ぐ

## 海外派遣部隊からの挨拶



第49次派遣海賊対処行動 水上部隊指揮官 中佐 早川 正紘

新年明けましておめでとうございます。第49次派遣海賊対処行動水上部隊は、本年も護衛艦「むらさめ」を旗艦として、海上自衛隊を含む国際社会の



第56次派遣海賊対処行動 航空隊司令 中佐 長 洋介

遠く灼熱のジブチ共和国から、新年明けましておめでとうございます。第56次派遣海賊対処行動航空隊(以下、「派航空」)を代表いたしまして、新年のご挨拶を申し上げます。



第22・23次派遣海賊対処行動 支援隊司令 中佐 富永 誠

謹んで新春のお慶びを申し上げます。平素より、派遣海賊対処行動支援隊に対する深いご理解とご厚情を賜り、部隊活動を代表しまして心より御礼申し上げます。

海賊対処活動を実施する水上部隊及び航空部隊を支援することに加え、中東・アフリカ地域における不測の事態の発生等に対処し得る態勢を整え、機敏な能力を維持・強化する役割を有しています。これまで、約4000名以上の隊員が、日本から遠く離れた灼熱の地で、日々の様々な活動を通じて、ジブチ国政府・軍、日本の国益の第1線で活動している実感があふれます。その構築を、現在の自衛隊活動